

こぶんの丘だより



ここは、ふどきの丘で一番標高の高い
ななつつか
七ツ塚15号墳の頂上から見たながめです。
標高何メートルか学芸員さんに聞いてみてね。

主な内容

秋の特別企画展 風土記の丘のこぶんたんけんー霧の里からのメッセージー	2 P
たんけん！ふどき～土の量、ダンプカー〇〇〇台分!?浄楽寺12号墳～	3 P
常設展示室のイチオシ！～暗文のある古代の土師器～	4 P
風土記の丘こども文庫のおすすめ図書紹介コーナー	4 P

風土記の丘の こふんたんけん

—霧の里からのメッセージ—

令和7年10月3日（金）～11月24日（月・休）

休館日 月曜日（ただし、10月13日、11月3日、11月24日は開館）、
10月14日（火）、11月4日（火）

昭和54年の開園以来、みよし風土記の丘はたくさんの人々に愛され、守られてきました。

園内にある史跡「浄楽寺・七ツ塚古墳群」は、1,500年ほどむかしの古墳時代に生きた人々の姿を今に伝える「語り部」です。霧の中から聞こえる古墳たちのささやきにそっと耳をかたむけると、当時の人々の姿や生活のようすがうかびあがってきます。この展示会は、広島県立歴史民俗資料館が開館して、来館者が150万人を突破したのを記念して開催します。ひろしま県内と園内の「浄楽寺・七ツ塚古墳群」の古墳をくらべ、古墳たちが、わたしたちに問いかけるナゾを推理しながら、風土記の丘を探検します。

さあ！学芸員と一緒に、風土記の丘の「こふん」のナゾをさぐりましょう。



曲第2号古墳出土短甲（庄原市）当館蔵

ボクと同じ短甲が見つかったら、
どんな人が着ていたんだろう？



関連行事

○ふどきの丘探検ツアー

開会期間中の日曜日（10月5日、19日除く）13：00～15：00

○展示解説会

10月5日（日）、11月3日（月・祝）13：30～14：30

入館料

一般700円（560円）、高校・大学生520円（410円）、
小・中学生350円（280円）※（ ）は20名以上の団体料金

★ひろしま教育ウィーク（11/1～11/7）期間中、小・中・高校生は無料です。



たんけん！ふどぎ

土の量、ダンフカー〇〇〇台分!?

浄楽寺12号墳

記念すべき創刊号は、風土記の丘で
一番大きい古墳をピックアップ。



みよし風土記の丘で一番大きい古墳「浄楽寺12号墳」は、直径約45メートル、高さ約6メートルの円墳です。墳丘は二段になっていて、途中にテラス（平らな段）があります。テラスと古墳の頂上（墳頂）には、円筒埴輪が並べられていました。墳頂の中央には、木棺を粘土で覆った粘土槨という埋葬施設が二つ並んでいました。埴輪や副葬品から、古墳は5世紀ごろに造られたと考えられます。

さて、浄楽寺12号墳を造るには、どのくらい土が必要だったのでしょうか？

浄楽寺12号墳は、下のテラス部分までは山を削って造っているの、その分だけ盛り上げる土は少なく済んでいます。

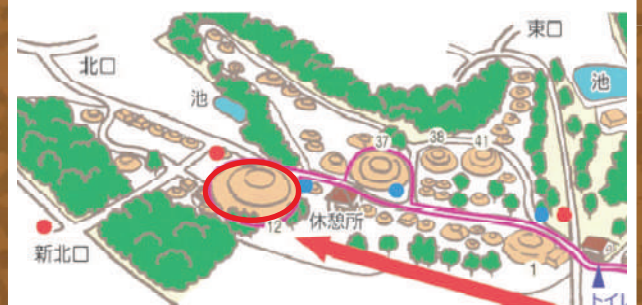
盛土で造った部分の大きさを求めてみると、体積は約2,000m³で、重さは約3,600トンと推定されます。10トンの大型ダンフカーで約380台分の土が使われることになります。数字でみると、量の大きさに驚かされますね。

当時の人は、この量の土を自分たちの力で運び、積み上げて墳丘を造りました。古墳には、さらに葺石や埴輪を並べる必要があるの、さらに多くの労力と長い時間がかかったことでしょう。

人々にとって、古墳がどれほど大切なものだったのか。現地で浄楽寺12号墳の大きさを体感し、古墳に込められた思いを想像してみたいかがでしょうか。



浄楽寺12号墳（南東から撮影）



資料館から徒歩30分（園路沿いに1.4km）

常設展示室のイチオシ！

暗文のある古代の土師器

※暗文…器の表面に放射状や螺旋状などの線をへうで薄く描いた文様

右上の写真は、古代のコーナーに展示されている名広遺跡出土の土師器です。本遺跡は安芸高田市高宮町房後にあり、昭和 61（1986）年に発掘調査されました。この土器は 7 世紀後半頃とみられる住居跡状遺構から出土しました。高台のある土師器の盤で、表面に丹が塗られ、内面に放射状の暗文※が残っており、当時の畿内産土師器の影響を受けたものと考えられます。なお、共に出土した暗文のある土師器の杯（右下の写真、展示されていない）は、畿内からの搬入品の可能性があります。こうした暗文のある土師器は、古代律令国家形成の進む飛鳥時代において当地域と畿内との密接な関係を示す資料の一つと考えられます。土師器は見栄えのする資料ではありませんが、その資料が持つ背景にはそれなりの意味があることを教えてください。



土師器盤(上)・杯(下) 当館蔵

～筆者あとがき～

個人的なことで恐縮ですが、名広遺跡は小生が初めて報告書を作成した遺跡であり、約 40 年ぶりに振り返ることができ、感慨深く思っています。

風土記の丘こども文庫の

おすすめ図書紹介コーナー

資料館休憩ホールにある「風土記の丘こども文庫」。子どもも大人も楽しめる、歴史や文化や川に関する本が置いてあり、自由に読んでいただけます。その中から、今回は秋の特別企画展「風土記の丘のこふんたんけん」に合わせて、「古墳時代が分かる！」おすすめ図書3冊を紹介。



『調べ学習日本の歴史2 古墳の研究』

一瀬和夫（近つ飛鳥博物館学芸員）監修 ポプラ社

古墳ってなにか？古墳はどのようにしてつくられたのか？分かりやすく書いてある本です。古墳時代の入門書としておすすめ。

『はにわのヒミツ』

河野正訓 山本亮 著 新泉社

一冊まるごとにはにわの本。はにわの種類、作り方、歴史など、とことんはにわに迫ります。写真をながめるだけでも楽しい。あなたもきっと「はにわ好き」になります。



『探訪・広島古墳』

脇坂光彦 小都隆 企画・編集 芸備友の会

広島県内の主要な古墳約120基を紹介。古墳の所在地や大きさ、時期をまとめているので、どこにどんな古墳があるのか分かります。あなたの家の近くにも古墳があるかも？

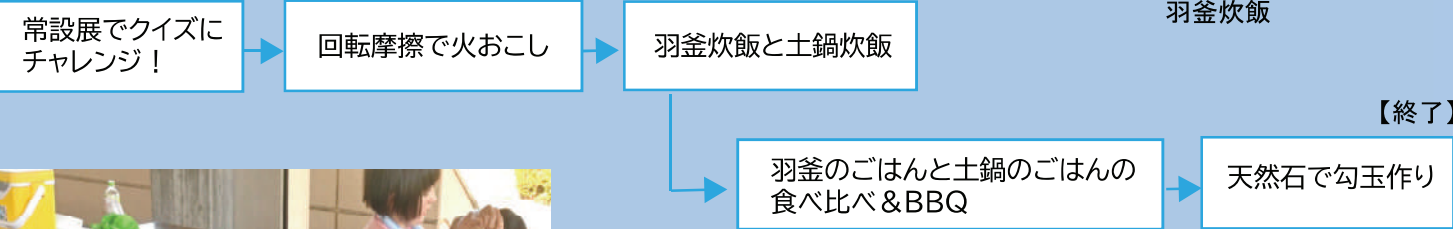
ゆったり歴史体験

一日一組限定の大人気ワークショップ。
 家族や気の合う仲間と一緒に、会場と学芸員を独り占めして楽しめます。
 木の摩擦で火をおこし、おこした火で本格炊飯、^{まがたま}勾玉や古代の首飾り作り、
 ふどきの丘のたんけんなど、お好きな組み合わせで一日お楽しみいただけます。



「はじめチョロチョロ・なかパッパ！」
 羽釜炊飯

【開始】



「心に火が付く」火おこし体験

《参加者のコメント》

長時間にわたり、本当にありがとうございました。
 娘が絶対に自分いざ火を起こしたいと言い、諦める
 ことなく挑戦したことはいとも感動的でした。また
 参加させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

※今年度は、受付を終了しました。

学芸員の部屋

学芸員の重要な仕事は「伝える」～貴重な資料を末永く活用し続けられるよう「未来へ伝える」・歴史や文化の価値をひも
 といて「皆さんに伝える」～ことにあります。ここ「学芸員の
 部屋」では、普段皆さんに見えないところで「伝える」ために
 奮闘している、当館学芸員のいろんな仕事を紹介します。

2時間以上
 4-7!!
 7月20日13:00
 温度 / 湿度
 29℃ 55%

資料収蔵庫の温度・湿度管理

短い梅雨が明けたとたんの猛暑、時に大雨と天気が目まぐるしく変わるこの頃、資料館の奥ま
 た場所にあり外気に触れない資料収蔵庫にも影響が及びます。高温多湿は多くの資料の保存の大敵
 ですが、エアコンをつければすぐ解決、というわけにもいきません。デリケートな資料は温度・湿
 度が急激に変化することも劣化の原因になるため、ゆっくりと適切な温湿度にしていけることも必要
 です。

定例の点検で温度や湿度に良くない兆候を発見したら、学芸員は交代で数時間おきに計器の数値
 を見ながら調整を始めます。空調をかけて温度も湿度も下げたり、除湿器だけ動かしたり、機械を
 止めて様子を見たり…微妙な調整を行いながら、資料の適切な保存が出来るように収蔵庫内を適正
 な温度や湿度に戻していきます。



ようこそ！風土記の丘へ

風土記の丘には、社会見学や体験学習として小・中学校や高校から多くの児童・生徒が来てくれています。

5月1日（水）比治山女子中学校2年生

14:00 到着

14:05 常設展を見学

（学芸員の解説で理解を深める）

14:35 企画展を見学

（三次人形など広島県の歴史・文化に触れる）

15:00 セツ塚古墳群まで散策へ

（古墳の大きさを体感！想像した古墳より大きい？）

16:00 出発

☆児童・生徒の学年や学習の目的、時間に合わせて
見学・体験プランを提案します。お気軽に御相談ください。



博学連携

広島県立三次青陵高等学校

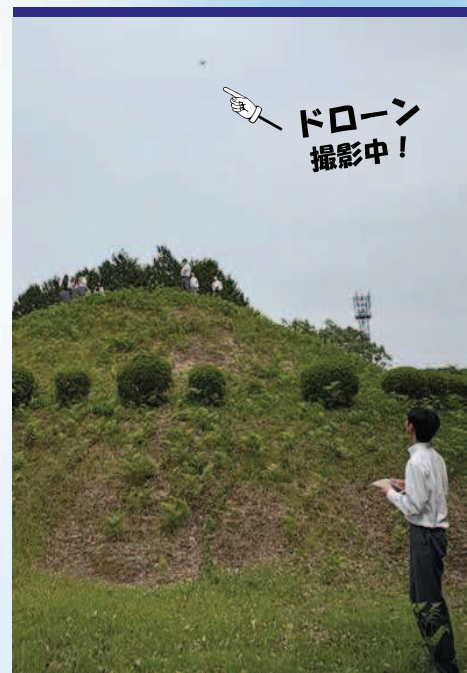
広島県立日彰館高等学校

博学連携とは、「博物館と学校がそれぞれの教育機能を活かして連携・協力し、よりよい形で子供たちを教育していこうとする活動」です。

昨年度に引き続き、三次青陵高校と日彰館高校の生徒の皆さんには、常設展示室入口で上映する、地域の文化財を紹介する動画の制作をお願いしています。

三次青陵高校の皆さんは、「常設展示室」をテーマに、はにわだものの着ぐるみも活用しながら撮影を進めていきました。また、日彰館高校の皆さんは、学校からほど近い「三玉大塚古墳」をテーマに空中ドローンなどの撮影機器を利用しながら撮影を行いました。

どのような作品が出来上がるのか、とても楽しみです。



常設展示室での撮影の様子（三次青陵高校）

三玉大塚古墳での撮影の様子（日彰館高校）

昨年度に制作した動画は
資料館エントランスで上映中！

見てたのしむ



食品サンプルで あそぼう! 学ぼう! シェアしよう!

本物そっくりの食品サンプルをとおして、食の世界の広がり楽しさを紹介しました。
江の川の「川魚料理」、広島県北特有の食文化「ワニ料理」、広島でも場所によって独自性のある「お好み焼き」など、通常は博物館では難しい「食」に関する展示を行いました。



入館者15,000人突破!

本物の食品ではありえない様子を撮ることができる写真コーナーや、サンプルと本物の違いを見分けることができるかどうかにはチャレンジする「本物はどれだ!」コーナーなど、楽しめる内容が多く、会場では、大人から子供まで年齢を問わず歓声があふれていました。

また、ワニ料理や川魚料理の前ではおじいちゃん・おばあちゃんがお孫さんに、「昔は、よく食べていたよ」と実物（サンプル）を目の前にした具体的な食文化の伝承が行われている光景も見られました。

展示にあたっては、見るだけでなく、触る・撮る・シェアするといった様々なアプローチをとおして、来館者に楽しみを提供するとともに、学べる展示として食育に関わる展示も行いました。

風土記の丘ギャラリー

鉄道写真展 県北の「首都圏色」車両

10月13日(月・祝)まで開催



きどうしゃ
1970年代後半、当時の国鉄は普通列車に運用する一般型気動車の塗装を朱色に変更しました。この塗装は、首都圏から試行的に実施されたことから「首都圏色」と呼ばれます。JR化後の一時期、他の色に変えられたこともありましたが、2010年頃から再び朱色に改められています。40年前と現在の対比をご鑑賞いただければ幸いです。

出展者 清原 正明



芸備線 高→備後庄原
(1981年11月 清原正明さん撮影)



芸備線 西三次→志和地
(2022年3月 廣瀬悠吏さん撮影)



こふんの丘イベント案内

ふどきの丘 古墳まつり

日時 10月19日(日) 10:00~15:30

ふどきの丘体験教室3

「こふんの森たんけん②秋のネイチャーゲーム」

日時 10月19日(日) 13:30~15:30

指導 広島さとやまシェアリングネイチャーの会リーダー

定員 30名(事前申込・先着順)

参加費 500円程度(材料費・保険代)

申込 応募フォーム又ははがきのいずれかでNPO法人
ほしはら山のがっこうまでお申込みください。

申込先 〒728-0624 三次市上田町388

NPO法人ほしはら山のがっこう

TEL 0824-69-2888



記念講演会

「古墳とは何か

—古墳の葬送儀礼—」

日時 10月25日(土) 13:30~15:30

講師 和田 晴吾さん(立命館大学名誉教授)

申込 当日受付

記念座談会

『史跡浄楽寺・七ツ塚古墳群』

～みよし風土記の丘を未来に残していくために～

日時 11月15日(土) 13:00~16:30

申込 当日受付



みよし風土記の丘友の会会員募集中

「みよし風土記の丘友の会」は、歴史・考古・民俗について深く
知る機会を提供し、相互の親睦をはかり、資料館とともに文化財
を護り地域文化の向上に寄与することを目的としています。

〈年会費〉一般会員 1,500円

家族会員 2,500円(同居家族5人までが会員となります。)

〈入会方法〉

方法1 QRコードからお申込み

方法2 資料館窓口でお申込み



〈お支払い方法〉

資料館窓口での支払またはゆうちょ銀行口座へお振込みください

利用案内

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日、年末年始(12月28日~1月4日)

入館料 一般200円(160円)

大学生150円(120円)

高校生以下・65歳以上は無料

※()は20人以上の団体料金

※特別企画展は別料金です。特別企画展の入館料で、
常設展もあわせて御覧になれます。

※休館日は変更になる場合があります(特別企画展期間など)。
くわしくはHPを御確認ください。

アクセス



〔自家用車〕

三次IC・三良坂ICから約10分

〔タクシー〕

三次駅から約15分

〔徒歩〕

JR神杉駅から約3km



歴風ボランティア募集中!

「歴風ボランティア」は、主に常設展示室の解説
(毎週日曜日)やイベントでの補助などの活動を行
っています。楽しく歴史と一緒に学習しませんか?
くわしくはHP「歴風ボランティア」を御覧ください。



みよし風土記の丘ミュージアム「こふんの丘だより」創刊号

編集・発行

令和7年8月



みよし風土記の丘ミュージアム
(広島県立歴史民俗資料館)



〒729-6216 広島県三次市小田幸町122
TEL 0824-66-2881 FAX 0824-66-3106
e-mail rmsgakugei@pref.hiroshima.lg.jp



X

Instagram